

## 通信・放送の境界領域サービス例

### 1. ブロードバンド網を利用した放送サービス例

#### KDDI光プラスサービス

- 最大 100Mbps の光ファイバ網上で、高速インターネット接続、IP 電話に加え、放送サービスを提供している。
- 30 チャンネルの多チャンネル放送に加え、映画、スポーツ、アニメなどのビデオが好きな時に見られるビデオオンデマンドサービス (VOD) も提供している。
- 光ファイバ回線と新たに構築した同社独自の CDN (Contents Delivery Network) を組み合わせたネットワークを構成することで、高速・高画質・安定・高セキュリティな動画配信を実現している。
- 映像フォーマットは M P E G 2 形式で、圧縮レートは 4 M b p s となっている。視聴者は DVD クラスの高画質映像を楽しめる。
- 価格はインターネット接続、IP 電話、放送サービスのセットで 7,297 円、インターネット接続と放送サービスのセットで 6,615 円となっている

( 出所 ) KDDI ホームページ ( <http://bb.kddi.jp/> )

( <http://www.watch.impress.co.jp/av/docs/20031212/kddi.htm> )

### 2. 携帯電話を利用した放送と通信の連携サービス例

#### 1) au の FM ケータイサービス

- 携帯電話に FM ラジオチューナーを搭載、放送と通信の連携サービスを提供している。
- ユーザは FM 放送を視聴しながら、画面上でオンエア中の曲名を確認する、あるいは放送局のサイトにアクセスして関連情報を見ることができる。また、オンエア中の曲の着メロ等をダウンロードすることも可能になっている。
- KDDI は本サービスを、2005 年度に予定されている携帯電話端末向けデジタル放送開始後に本格化すると見られている、放送・通信の融合サービスのパイロット的な取り組みとして位置づけている。
- 放送の視聴料金は無料であるが、サービスに対応した携帯電話端末を購入する必要がある。

( 出所 ) IT メディア 2004 年 9 月 16 日 記事

( <http://www.itmedia.co.jp/mobile/articles/0409/16/news028.html> )

## **2) au の動画放送配信サービス「EZ チャンネル」**

- 下り最大 2.4Mbps の高速パケット料金定額サービスのユーザを対象に、ショートムービー形式の放送番組を配信している。
- ユーザが見たい番組を登録しておく、深夜に自動的に番組をダウンロードして好きな時に再生できる。一部コンテンツは再生回数・日数に制限がかかっている。
- 上述の FM 放送サービスと同様、ユーザは放送を視聴しながら、放送内容に関連した情報をサイトでチェックし、デジタルコンテンツを購入することができる。
- パケット料金定額制サービスの料金は 2,100 円～4,200 円である。これ以外に、100～300 円程度の情報料がかかるが、プロモーションを主目的とした無料番組も増えている。

(出所) IT メディア 2004 年 9 月 16 日記事

(<http://www.itmedia.co.jp/mobile/articles/0409/16/news028.html>)

## **3) 携帯端末向け地上デジタルTV放送サービス**

- NHK が KDDI が共同して、2005 年度に開始予定の携帯端末向け地上デジタルテレビ放送を受信し、通信と放送のサービス連携を実現する携帯電話機を開発した。
- 携帯端末向けデータ放送規格である BML (Broadcast Makeup Language) に完全準拠しており、通信コンテンツと放送コンテンツの相互連携を実現している。
- 通信コンテンツと放送コンテンツを画面に同時に表示できる。例えば、災害時にセンターから携帯端末の放送受信機能を自動的に起動し、緊急警報放送を携帯電話画面に表示させることができる。またユーザは放送を見ながら、災害の詳細情報を参照することができる。
- また、携帯電話に搭載された GPS 機能によって取得した位置情報を活用して、映画などの予告番組等を見たユーザが最寄の上映劇場を検索することなども可能になる。
- サービスの価格等は未定。

(出所) KDDI ホームページ

([http://www.au.kddi.com/ezweb/au\\_dakara/ez\\_channel/](http://www.au.kddi.com/ezweb/au_dakara/ez_channel/))

### 3 . デジタル放送を利用した放送・通信融合サービス

#### サーバー型放送

- ユーザはホームサーバに放送番組を蓄積し、好きな時に視聴することができる。見たい番組がホームサーバに蓄積されていない場合は、放送局のサーバからダウンロードする。ユーザが放送・通信を意識せずに番組の検索や視聴を行うことができる点が特徴である。
- 放送局から送られてくるメタデータ（番組に関する付加情報）を利用することで、好きなシーンのみを見る、複数のシーンを組み合わせたダイジェスト版を見る、といった新しい番組視聴スタイルが可能となる。
- また、放送番組を見ながら放送局のサーバにアクセスし、メタデータをもとに番組に関連した情報や商品等を検索し参照・購入することもできる。
- こうしたサービスを実現する上では、課金、著作権保護等のインフラ整備が必要であり開発が進められている。
- サーバー型放送は、放送のデジタル化によって可能になる新しいタイプのサービスとして注目を集めているが、事業化に成功している事例はまだ少ない。2002 年より東芝や松下電器等が共同出資して設立した株式会社イーピーが 110 度 CS 放送を利用した蓄積型放送サービス（画面上でのショッピング、メール受発信、番組と連動した広告配信等）を提供していたが、2004 年 3 月に同サービスを終了した。

（出所）KDDI ホームページ

（[http://www.kddi.com/corporate/news\\_release/2004/0512c/](http://www.kddi.com/corporate/news_release/2004/0512c/)）

（出所）イーピー株式会社ホーム - ページ

（<http://www.epep.jp/>）

（<http://www.watch.impress.co.jp/av/docs/20040210/ep.htm>）

#### 4 . TV と携帯電話の連携による放送・通信連携サービス

- 上記と同様の放送・通信融合サービスを、TV と携帯電話を組み合わせることで実現しようとするサービスも出現している。
- サイバード、IMAGICA、IMAGICA ディーシー21 の3社は、地上デジタル放送の番組と携帯電話を連携させる双方向コミュニケーション技術を開発した。
- ユーザが番組を見ていると、放送中の画面右端に「PUSH」マークが表示される。赤外線付きの携帯電話で Java アプリを起動してテレビに向けて決定ボタンを押すと、関連情報の URL が掲載されたメールがユーザの携帯電話に送られる仕組みになっている。
- 上記以外にも、最近では番組の視聴者に携帯電話で投稿・投票等を行ってもらい、放送番組に反映させるなど、視聴者参加型の番組も出現している。
- 通常これらのサービスでは、放送局や広告代理店がコストを負担するケースが多く、原則として利用者は通信費のみを負担している。

( 出所 ) ケータイWatch ホームページ

( [http://k-tai.impress.co.jp/cda/article/news\\_toppage/15897.html](http://k-tai.impress.co.jp/cda/article/news_toppage/15897.html) )